「持続可能な観光」の世界的動向・日本の観光コンテンツの海外発信



柳谷　啓子　YANAGIYA, Keiko
中部大学人文学部コミュニケーション学科教授
中部大学国際人間学研究所長、人文学部長
慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程修了。文学修士。専門分野は、社会言語学、英語学、談話分析。研究テーマは、メディアと表現の関係、デジタルアーカイブなど。主な訳書・著書に『読みのプロトコル』『スコールズの文学講義：テキストの構造分析にむけて』『エーコの読みと深読み』（以上岩波書店）『＜はかる＞科学：計・測・量・謀：はかるをめぐる 12 話』（中央公論新社）。

本日は、年度末のお忙しい中、またお足元の悪いところ、国際人間学研究所の持続可能な観光 2022 年度シンポジウムに多数お運びおいただきまして、ありがとうございます。

まず、当研究所がどのようなことをミッションとして研究を行っているところなのかということをちょっとお話しします。国際人間学研究所は 2004 年に国際関係学部と人文学部の上にまたがって設置された研究所です。近年、大学院である国際人間学研究科の下に入る形で、研究科の研究所という形になりました。構成員は、主に国際人間学研究科の所属教員となっています。ミッションとしては、第一に、地域活性化（ローカライゼーションで）を基盤とした国際共生社会（globalization）の実現を目指すということです。次に、文理融合の研究プロジェクトを推進すること。それから、それを通して国際人間が研究科を活性化すること。ひいては、中部大学の存在意義を高めるということを目標にやっております。その達成のために、私が所長を拝命した 2019 年度より、「持続可能な観光」という共通の切り口で、歴史・文化・政治・経済・情報などの視座からの研究を 3 年計画で推進してまいりました。

ローカルフィールドとしては、地元春日井市はじめ、連携協定関係にある高山市、恵那市、そしてちょっと飛び地をして、ご縁のある稚内市を研究しております。それからグローバルフィールドとしては、学術交流協定を結んでいるマレーシア科学大学があるマレーシア、研究科が学術交流協定を結んでいる内モンゴル大学がある内モンゴルです。また、春日井市の姉妹都市であるカナダのケロウナを中心に、研究を進めています。2019年当時は7プロジェクトありました。春日井市、飛騨高山市、稚内市、マレーシア、内モンゴル、ケロウナという、7 つのプロジェクトがあったのです。

しかし、ご存知の通り 2019 年度末からのコロナ禍で、海外のフィールド行けなくなり、研究がすっかり停滞してしました。国内フィールドも県を越えられないということになり、活動がストップしていました。あと定年退職された方のプロジェクトを閉じたりして、現在、5 プロジェクトに集約され、3 年計画だったものを 1 年延長して 22 年度、今年度末までという形にして各プロジェクトが研究を進めています。それぞれのプロジェクトの成果、および提案などを、この後、プロジェクトリーダーの皆さん、に発表していただくことになっています。

さて、肝心の「観光」ですが、コロナ禍を経て、どのくらいの状況なのかということで、例えばインバウンドだけ見てみますと、図 1 のような状況にあります。

赤い方の 2022 年を見てみますと、10 月の水際対策緩和を受けて急激に戻ってきまして、多分今はもうちょっと上を行っていると思います。現在そのような状況にあります。図 2 の国別に見てみますと、かつては中国とか韓国、台湾が多かったわけですが、ご覧のようにチョボチョボと

いう感じではあります。これが戻ってほしいわけですけれども、戻ればいいというものではなく。私達が焦点を当てています「持続可能性」というものが確保されないと困るわけです。

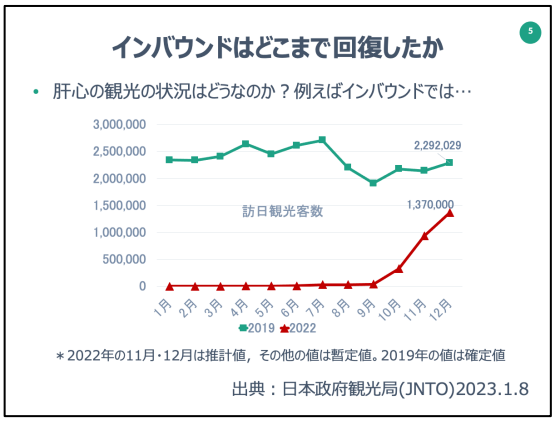

図 1. インバウンドの回復状況：2019 年と 2022 年の比較　出典：日本政府観光局(JNTO)2023.1.8

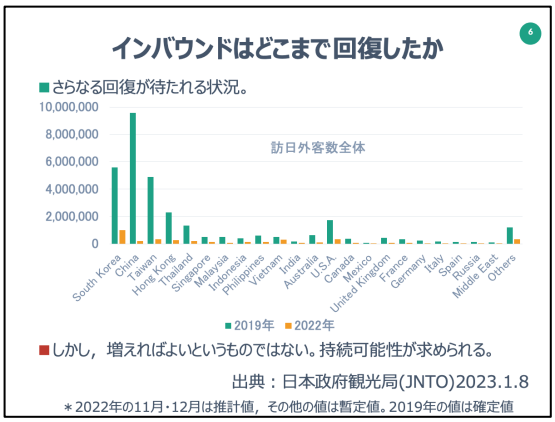

図 2. インバウンドの回復状況：2019 年と 2022 年の比較　出典：日本政府観光局(JNTO)2023.1.8

国連の世界観光機関（UNWTO）では、「持続可能な観光」というものを定義しています。これについては昨年も言及いたしましたので、皆さんご存知かもしれませんが、訪問客・産業・環境・受け入れ地域と、それぞれのステークホルダーの需要に適合しつつ、現在と未来の環境、社会・文化・経済への影響に十分配慮した観光ということです。

2019 年には、世界の国際旅行者数が 14 億 6000 万に達して、旅行者の増加が地域の社会経済の活性化や雇用の創出に貢献したということです。一方で、自然環境やそこに暮らす人々の生活というものに大きな負荷をかけているという問題が意識されるようになってきたわけです。さらにコロナ禍で、世の中の人たちは観光に行けなくなって、小休止を余儀なくされました。つまり、人々が観光の正負の影響をちょっと立ち止まって考える時間があったということです。

観光地では、「住んでよし、訪れてよし」の地域作りに向けて、観光のプラス面の影響を最大化し、かつ、マイナス面を最小化する取り組みを行い始めました。

一方、旅行者は自らが、旅を通じて地域社会の文化や経済環境に与える影響を考えるようになりました。自分が訪れることで与える影響に敏感になり、その結果、旅先でよりサステイナブルな移動手段を選択するようになってきているなどの傾向が見られるとのことです。観光客のそうしたサステイナブル・マインドの裏付けとして、Booking.com が 2016 年から毎年実施している調査の結果報告書を見てみます。

同報告書では、コロナ禍を経て、観光を取り巻く状況が大きく変化し、持続可能性への関心が高まったと調査結果をまとめています。この調査は、30 カ国を対象に 2 万 9,000 人にアンケート調査をした結果です。例えば、「今後 1 年以内にサスティナブルな宿泊施設に最低でも 1 回泊まりたい」と答えた人は、2016 年では 62%だったのですが、2022 年では 78%になったとのことです。

世界の旅行者にとっては、サステイナブルであるかどうかが旅行先や旅行商品を選ぶ際の重要な要素になってきていると報告書はまとめています。これは留意しておくべき点かと思います。また、調査結果では旅行者特性は、その土地ならではの「本物の体験」、オーセンティックな体

験で、お金では買えない自分しか味わえないような体験を求めるようになってきているということです。

さらに、いわゆる観光スポットを巡るのではなく、ローカルな暮らしや自然に触れてゆったりとした時間を過ごす。そして精神的な充実感を味わうということを重視するようになってきているというういう結果が出ています。同時に、訪問地に対してポジティブな影響をもたらしたいとも考えている。自分が得するだけではなくて、行った先に何かいい影響を残したい、つまり環境負荷を軽減したいとか、経済効果をもたらしたいとか、そういう他者に対しての思いというものも生じ始めているということが結果からわかっています。

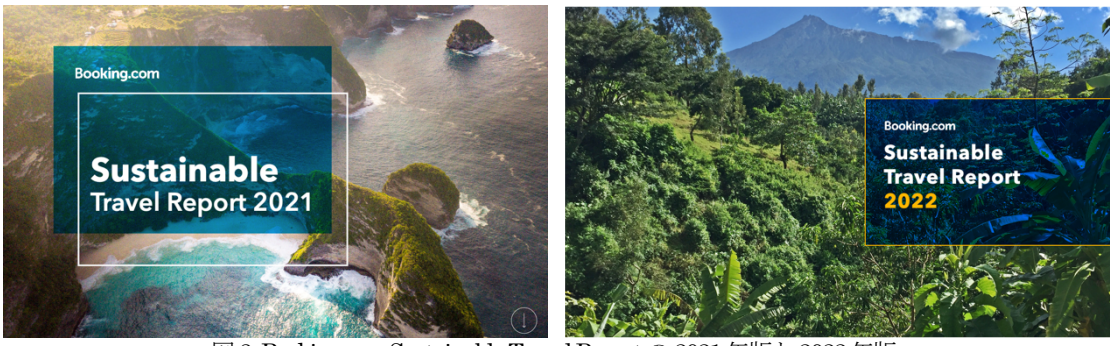

図 3. Booking.com Sustainable Travel Report の 2021 年版と 2022 年版

2021 年版では、旅行者の 61%が、コロナ禍により将来的に、より持続可能な旅をしたいと考えていると報告されています。また、コロナ禍を経て、将来的により持続可能な旅行をしたいと述べた旅行者のパーセンテージでは、ベトナム、インド、コロンビア、中国、メキシコなどが 80%を超えているのに対して、日本は 42%にすぎず、まだまだ意識は低いという感じではあります。

次に、地域経済を支援するために、過去 12 ヶ月の間の旅行中に個人経営の小さな店で買い物をした人のパーセンテージを見てみますと、上位にはアルゼンチンとかメキシコ、ベトナムなどが来ていて 60%付近なのに比べ、日本は最下位で 20%です。

2022 年の調査結果では、過去 1 年の間に 33%の旅行者が密を避けるためにピークシーズンを避けたとあります。これは多分みなさんも実感としてあるかと思います。それから 27%の旅行者が、ポピュラーでない目的地を選び、64%の旅行者がポピュラーな観光地やアトラクションを避けたとあります。さらに、40%の旅行者がオフシーズンにのみ旅行し、31%の旅行者が行きたかった目的地の代替地を選んだということです。コロナ禍の影響で、旅行者はこのような行動をとるようになっていったということなのです。みんなが集まるような場所には行かないで、どういうことを希求するようになったかというと、地元の文化を代表するような「本物の体験」をしたいと考えるようになってきたとだそうです。さらに、59%の旅行者は、訪れた場所を自分が訪れる前よりも良い状態にして帰りたいと考えているそうです。なんだかすごく温かい人たちだなという感じですね。

2021 年の調査では、あまり捗々しい結果ではなかったものの、日本でもサステイナブルなツーリズムへの取り組みが進んできて、ここに来て加速しているということが国土交通省観光庁などの資料からわかります。持続可能な観光ガイドラインの日本版（JSTS-D）については、一昨年の報告書で報告したと思いますが、これが策定されて 2020 年度から全国各地でモデル事業が

実施され始めています。国土交通省観光庁の資料によれば、「持続可能な観光推進モデル事業」の対象は、①持続可能な観光地経営モデル形成事業、②持続可能な観光を実践する地域人材の育成・創出事業、③持続可能な観光サービスを提供する地域の事業者における取組促進事業とのことです。いろいろな支援の区分があるのですが、この近辺では、三重県明和町、高山市、中津川市などが選定されています。

日本でも地域によっては「持続可能な観光」への意識が高く、中には国際的な評価を得ているところもあります。例えば、Lonely Planet という旅行ガイドブックはご存知だと思いますが、そこがやっている Best in Travel 賞では、2021 年度にサステナビリティ部門で和歌山県が第 1 位を獲得しています。また、国連の世界観光機関（UNWTO）の BEST TOURISM VILLAGES では，北海道ニセコ町と京都府南丹市美山が選出 されています。

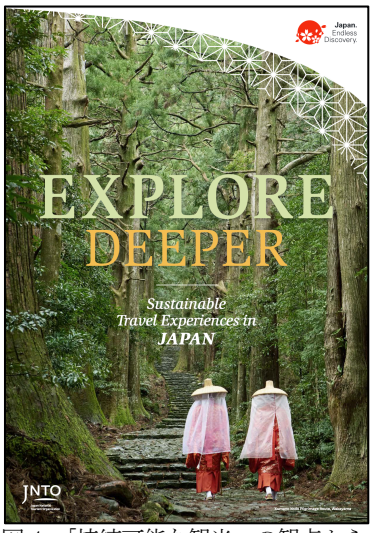

図 4.「持続可能な観光」の観点から JNTO が制作した英語パンフレット

日本政府観光局では、持続可能な観光の観点から、日本が誇る観光コンテンツを選定して海外に向けて発信する英語版のデジタルパンフレットを制作しました。「旅先の現地文化を象徴するような，本格的な体験がしたい」という 7 割の声や、その土地のローカルな暮らしや自然，その土地の人々の精神性や価値観に触れることで，精神的な充足感を得たいと希望する人が多い、との Booking.com の調査結果を踏まえて、日本でしか体験できないことなどを検討して、制作したということです。日本の独自性を源泉として、自然地形や気候と自然に根ざした日本人の精神性や価値性を中心に作ったということです。具体的には、「自然と自然に根ざした文化」をコンセプトとして、「自然を楽しむ」「エコ・フレンドリー」「食文化」「受け継がれる信仰」「文化財」「伝統芸能」「祭り」「匠の技」といったものを取り上げて制作したとのことです。掲載地域の選定の基準としては、自然・文化の利活用、環境負荷の低減、訴求力、国際認証、持続可能性への方針の公開、日本らしさ、JSTDS のモデル地区選出などだそうです。

以上、「持続可能な観光」の最近の動向を概観いたしました。本日は、連携協定を結んでいる高山市、恵那市、さらに人文学部教員 2 人のフィールドであり古巣である稚内市からも発表者をお迎えしております。研究所のプロジェクトリーダーによる活動報告、続いて学生たちによるポスターセッションもあります。どうか最後までごゆっくりとお楽しみいただければ幸いです。

参考文献

「記者発表」『和歌山県公式』掲載日 2021.2.2　閲覧日 2023.2.2
https://www.pref.wakayama.lg.jp/chiji/press_animation/d00207216_d/fil/030202_3.pdf
「サステナビリティ（持続可能性）を体現する日本の観光コンテンツを海外に向けて発信」『日本政府観光局』
更新日不明　閲覧日 2023.2.1　https://action.jnto.go.jp/report/3509
「『持続可能な観光推進モデル事業』の概要」『国土交通省観光庁』
https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001514327.pdf　最終更新日 2022.9.6 閲覧日 2023.2.1
「Booking.com 2022 Sustainable Travel Report」『Global Sustainable Tourism Council』更新日 2022.4.22 閲覧日 2023.2.1　https://www.gstcouncil.org/booking-com-2022-sustainable-travelreport/?lang=ja
「Booking.com Sustainable Travel Report 2021」『Booking.com』掲載日 2021.6.4 閲覧日 2023.2.2
https://globalnews.booking.com/download/1037578/booking.comsustainabletravelreport2021.pdf
「Booking.com Sustainable Travel Report 2022」『Booking.com』掲載日 2022.6.9　閲覧日 2023.2.2
https://globalnews.booking.com/download/1161485/booking.comsustainabletravelreport2022final.pdf
「UNWTO Announces List of Best Tourism Villages 2021」『UNWTO』掲載日 2021.2.12 閲覧日 2023.2.2
https://www.unwto.org/tourism-villages/en/news/unwto-announces-list-of-best-tourism-villages-2021/